理事長就任のご挨拶

このたび、令和4年10月1日より地方独立行政法人市立大津市民病院理事長を拝命いたしました。私は大津市にある滋賀医科大学で泌尿器科学講座教授として臨床、教育、研究の実践、指導を行うとともに滋賀県の地域医療にも9年余りの期間携わってきました。これらの経験が少しでも当院の地域医療に貢献し、結果として市民の健康の保持、増進につながるように精一杯努力する所存です。

ご存じのように当院は本年に医師の大量退職問題が発生し、皆様には大変ご迷惑、ご心配をおかけしました。4月よりは日野院長が赴任し、職員と一丸となって問題解決と信頼回復に努力し、医師の補充は進み、これまで通りの職務を遂行できるようになってきました。ただ、一度失った信頼を取り戻すのは一朝一夕ではできません。今後は私も加わり、市民の信頼が早期に回復するように努めたいと思います。このためには一人一人の患者さんやご家族の目線に立った、満足してもらえるような医療を心掛け、この満足が二人、三人と少しずつでも増えていくような地道な努力が必要です。幸い当院には優秀で労を惜しまない職員がたくさんいます。全員で一つの方向を向き、市民の皆様のために頑張っていきたいと思います。

今後ともご支援ご指導をよろしくお願い申し上げます。

理事長　河内 明宏

手術支援ロボット『da Vinci（ダヴィンチ）Xi』へ更新が決定しました

2014年5月に導入した『da Vinci Si』の後継機となる最新の『da Vinci Xi』へ更新いたします。当院では、外科、呼吸器外科、泌尿器科において適応症例は積極的にロボット支援手術を行っており、より精密でからだにやさしい手術を実現しています。

手術支援ロボット『da Vinci（ダヴィンチ）』とは

従来の腹腔鏡手術の欠点を克服し、ロボット支援技術を加えることで、複雑な手術手技をより安全に行うことを可能にした手術機器です。

血管造影装置を新設しました

当院では、今年9月に世界初導入である最新鋭の循環器用血管造影装置を導入いたしました。画像処理が一新されたことで造影剤量の低減、さらには放射線被ばく量低減が見込まれ、患者様の負担を大きく減らすことが可能となりました。今後の当院で行うカテーテル治療において、安全で迅速な診断・治療を充実させるツールになると考えます。

血管造影装置とは

血管の形状や異常、腫瘍への血管や血流の状態を検査・治療する、カテーテル治療に欠かせない装置です。お腹や胸を切らずに、臓器や血管の治療ができるため、体への負担が少なく入院期間の短縮につながります。

Follow me

消化器内視鏡センターのSNSができました

Facebook

市立大津市民病院 消化器内視鏡センター

Instagram

otsuchendoscopy

市立大津市民病院 Otsu City Hospital

つなぐ 特別号　2022年11月 発行

地方独立行政法人 市立大津市民病院
〒520-0804 滋賀県大津市本宮二丁目9番9号
TEL. 077-522-4607　FAX. 077-521-5414
https://och.or.jp/

市立大津市民病院
Otsu City Hospital

市立大津市民病院

患者さんと病院を「つなぐ」情報誌

つなぐ TSUNAGU

Otsu City Hospital

ご自由にお持ちください

2022年 特別号

理事長・院長インタビュー

明明白白

赤裸々にお答えします
2人のパーソナリティー

理事長・院長インタビュー 明明白白

明明白白：非常にはっきりしていて、少しも疑わしい点がない様子。事柄がきわめて明確である様子。
「明白」の「明」と「白」をそれぞれ重ねて強めた表現。

PROFILE

理事長
河内 明宏（かわうち あきひろ）

専門分野
泌尿器腫瘍、排尿機能障害、小児泌尿器科、ロボット支援手術、腹腔鏡手術

略歴
昭和59年京都府立医科大学卒。同附属病院泌尿器科、名古屋泌尿器科病院副院長、米国ウィスコンシン大学泌尿器科留学、滋賀医科大学泌尿器科学講座教授などを経て、令和4年10月に市立大津市民病院の理事長に就任。

資格・所属学会など
日本泌尿器科学会（理事・指導医・専門医）、日本泌尿器内視鏡・ロボティクス学会（理事・泌尿器腹腔鏡技術認定医）、日本夜尿症・尿失禁学会（理事）、日本癌治療学会（代議員）、日本泌尿器腫瘍学会（代議員）、日本小児泌尿器科学会（評議員・専門医）、日本がん治療認定医機構（がん治療認定医）泌尿器ロボット支援手術プロクター（膀胱・前立腺、副腎・腎）など

医師を目指したきっかけは？

幼少期に小児喘息を患い、病院に行くと辛い症状を先生が治してくださって、お医者さんの存在はとても温かく安心できる存在でした。子どもながらにお医者さんという職業に憧れを持ったことが最初のきっかけです。物心ついてからはそれに加えて、難しい学部にチャレンジしようという思いで医師を目指しました。

学生時代はどのように過ごしましたか？

大学生の時は6人制のバレーボールをしていました。その他には麻雀をしたり、飲み会をしたり、いわゆる大学生らしい大学時代を過ごしていたように思います。

趣味を教えてください。

趣味はゴルフで、4年ほど前から本格的に始めました。一緒に市立大津市民病院に着任した、泌尿器科診療部長の長船先生もゴルフ仲間で、昔の上司や同級生と共に楽しんでいます。

ゴルフの楽しいところはどのようなところですか？

スコアが上がることはもちろん嬉しいけれど、ナイスショットが出たときの“瞬間の楽しみ”がゴルフの醍醐味ですね。

健康面で気を付けていることはありますか？

あえて運動の時間を作るのではなく、日々の生活の中に運動を取り入れて、エレベーターではなく階段を使うことや、スマートフォンのアプリを活用して毎日4キロ歩くように心がけています。食事は、些細ではあるが間食をしないことと、野菜からしっかり食べるようにしています。

医師として大切にしていることはありますか？

患者さんの立場に立って物事を考えることです。

医師からして取るに足らないことかもしれないが、患者さんはとても不安に思われていることがあります。そのような時は、患者さんに寄り添い、耳を傾け、想いをくみ取って、一緒に解決していきたいと思っています。事務的ではなく、人情的な医者でありたいです。

生きる上で大切にしていることはありますか？

座右の銘は「なるようにしかならない」。

似た言葉で「なるようになる」という言葉があって、「なんとかなる」と、どちらかというとポジティブなイメージがあるけれども、生きていると「なんとかなる」ことばかりではないですよね。うまくいかないこともあるが、一生懸命力を尽くして、そこに身を委ねるしかないのです。いうなれば、“Let it be”。

※本取材は感染防止対策を講じて行いました。

事務的ではなく
人情的な医者でありたい

理事長
河内 明宏

「もっとこんな工夫が
あるのではないか」と
常に考えている

院長
日野 明彦

医師を目指したきっかけは？

脳神経外科医になろうと思ったのは、“脳神経外科”という響きが格好いいと思ったことと、先輩に声をかけてもらったからだったと思います。

なってから思いますが、医師は大変なこともあるけれど、真面目にやったら真面目にやっただけ達成感を感じられる、良い職業だと感じています。

学生時代はどのように過ごしましたか？

ヨット部でした。10年ほど夢に出てきた思い出があって、最後の試合で上位を帆走していたところ、風が止まってしまいノーレース（※レースが中止になること）になってしまったのは、辛かったですね。練習も冬寒くて夏暑くてとにかく辛かった…（苦笑い）

趣味を教えてください。

お腹周りが気になり始めてから自宅で簡単な筋トレとサイクリングをしています。

滋賀のサイクリングといえば“ビワイチ”（※「琵琶湖一周」の略）ですがビワイチをしたことはありますか？

一泊二日で“ビワイチ”しました。今まで自転車で転んだことがなかったのに、最後の最後自宅の前で転倒するというエピソードがあり、今では笑い話です。

健康面で気を付けていることはありますか？

特にはないかな。自転車で適度な運動をする程度です。病気になるときは、なる。

というのも、話はそれますが、数年前に肺がんを患って手術を経験しました。様々な書物を読み、色々な人に相談し、それでも何が正解かわからない。医師でさえそう思うのです。患者の立場になって、患者さんの想いに触れることができました。そういう意味では勉強になったと思っています。

医師として大切にしていることはありますか？

患者さんに気持ちよく帰っていただけるように心がけています。

治療においては、なんとなくみんなが従っていることが本当に正しいのかと、考え直すことが好きです。自分独自のスタイルで手術を行っているが、もっとうまくいくのではないかとか、もっとこんな工夫があるのではないかとか、常に考えています。指導面でも形に囚われず合理性を追求してほしいと教えてきました。

生きる上で大切にしていることはありますか？

与えられた環境の中で全力を尽くすこと。努力は報われるとは限らないが、手抜きをせずその場その場で一生懸命やることが大切。

PROFILE

院長
日野 明彦（ひの あきひこ）

専門分野
脳神経外科

略歴
昭和58年京都府立医科大学卒。京都第二赤十字病院、米シカゴ大学留学、済生会滋賀県病院脳神経外科部長、同院副院長、院長補佐などを経て、令和4年4月に市立大津市民病院の院長に就任。

資格・所属学会など
日本脳神経外科学会（専門医）、日本脳卒中学会（指導医）、日本脳卒中の外科学会（技術指導医）、日本医師会認定産業医など